

## 2012MHC 登山講習 紅葉の涸沢・奥又白を行く

9月29日 AM6:00 松本を出発。AM7:00 沢渡で総勢18名となり、4台のタクシーで上高地へ向かう。天候は高曇り。新釜トンネルを抜け、シラカバ林の車道を廻ると、空高く秋色の穂高岳が望まれ、大正池面には、その姿が鏡のように映し出されている。バスターミナルの広場で全員準備を整え、AM8:15 出発する。森林帯の中の林道を、明神、そして徳沢を通り過ぎ、梓川畔から対岸に聳える前穂高北尾根を眺めながら歩き進み、AM11:45 槍ヶ岳、蝶ヶ岳との分岐点、横尾に到着する。



上高地河童橋脇で記念撮影



徳沢と明神、前穂高岳



屏風岩大障壁

横尾で昼食後 PM12:30 涸沢を目指し出発。河原を30分程歩くと、左手に屏風岩の大障壁が望まれる。PM1:30 沢が合流する本谷橋に到着。小休止後、急坂の岩道を1時間も登ると、赤く色づくナナカマドの低木帯が広がり、穂高岳の稜線が間近に迫ってくる。PM3:15 涸沢ヒュッテに到着、泊する。夕食後、厚雲漂う吊尾根の彼方に夕日が沈み、徐々に翳ると、涸沢小屋の灯りが一層照らし出され、色とりどりのテントが張られた涸沢が静かに暮れていく。



色づき始めた涸沢を登る



後方に屏風の耳を望み、涸沢を登る



朝陽に照らされる涸沢

9月30日、AM4:00 起床、厚雲に覆われる高曇りの天候。雲間から朝陽が射し込み、秋色の穂高岳を黄金色に輝かせている。準備を整え、AM5:45 難路パノラマコースを行く。岩場を攀じり、ガラ場をトラバースして振り返ると秋色に彩られた涸沢カールが眼下に広がり、涸沢岳、奥穂高岳が高く大きく望まれる。北方には、流れる雲の切れ間から槍ヶ岳がひとときわ高く、天を突いて聳えている。



紅葉する稜線を行く



屏風の耳の岩稜線を登る



屏風の耳 2565mに見事登頂

AM7:00、稜線に登り出ると東側は、濃い霧に覆われ視界が閉ざされている。屏風のコルから、軽荷となって、目指す屏風の耳に向かう。岩尾根を登り、赤黄に紅葉した岩稜線を這うように詰めると、AM7:40 屏風の耳 2565mに全員登頂する。「おめでとう!」。しばらく休憩していると、流れる濃霧の切れ間から、豪快な穂高岳の峰々が見え隠れし、北方に槍の先鋒が一瞬その姿を現し、皆歓声を挙げる。



北方に、雲間から姿を現した槍ヶ岳 3180m



数々の登攀の歴史を刻んだ、前穂高岳東壁

AM8:15 下山を開始、再び屏風のコルに戻り、下山ルートを進んで徳沢へ向かう。滑りやすい岩道に足場を確保しながら降りていく。奥又白池への分岐を経てAM11:30 登山口へ到着。PM12:30 徳沢を経由し、PM2:00 上高地にようやく辿り着く。上高地からは往路と同じようにタクシーに乗り、沢渡からは4台の車に同乗してPM3:30 松本へ無事帰還する。

「いつまでも忘れられない、紅葉に彩られた涸沢と屏風の耳からの大迫力の峰々に、大感動」の登山だった。